

# 動物病院に連れて行くこと: 猫の飼い主へのガイド

猫を動物病院に連れて行くことは、猫の世話の中で重要なことです。 でも猫を移動キャリーに入れて動物病院まで往復することは、猫と 飼い主の両方にとってストレスとなる場合があります。 このガイドでは、猫を動物病院に連れていくことがもっと快適なもの になるようにいくつかのヒントをご紹介します。

REG CHARITY 1117342 (ENGLAND AND WALES)
PLACE FARM, CHILMARK ROAD, TISBURY,
WILTSHIRE, SP3 6LW, UK
© 2022 INTERNATIONAL CAT CARE.



監修:石田卓夫先生 / JSFM

### はじめに

猫を大切に飼うなら、猫の健康を保っことが最優先です。病気と診断されるのが早いほど、治療が容易になります。そのため、動物病院での定期的な健診や検査は、猫が長く健康な生活を送るのに役立ちます。病院へ連れて行くまでに猫のストレスは蓄積し(図1)、例え猫を驚かさないように努めても、

無理をすれば猫の健康を害する可能性があります。このガイドでは、動物病院に行く際の準備について説明します。その中には、猫用移動キャリーの選び方、移動にあたっての注意事項、その後帰宅した後の猫への接し方などのヒントが含まれます。

可能であれば、「キャット・フレンドリー・クリニック(CFC)」として認定された動物病院を選びましょう。CFCが猫にどのようなメリットがあるかなどの詳細については、インターナショナル・キャット・ケアの「猫に優しい獣医療について飼い主のためのガイド」(https://icatcare.org/advice-cat-carer-guidesで入手可能)やhttps://catfriendlyclinic.orgをご覧ください。



図1:「ストレッサー」とは、猫を動揺させるものです。動物病院を訪れるまでには様々なストレッサーがあり、猫はストレスを受け続けます。これらが徐々に積み重なっていき、その結果、猫は大きな恐怖を感じるようになります。 出典:インターナショナル・キャット・ケアより

### 病院へ行く時

猫が動物病院に行くときに ストレッサーとなる可能性があるもの





### 不快な状態、痛みや病気

(例:骨関節炎、悪心、他の疾患)

#### 思い通りにできない

(例:家・部屋から出られない/強制的にキャリーに入れられる)





### いつもと違う

(例:ごはんをもらえない、外へ出してもらえない)

#### 移動

(例:見慣れない景色、音、車の振動)







#### 逃げられない

(例:キャリーから、病院での触診、検査から)

### 以前の嫌な体験

(例:前回の診察時に怖い思いをした)





### 突然聞こえる大きくて恐ろしい音

(例:吠える犬、電話、人の大きな話し声)

### 新たな怖い体験

(例:待合室にいる他の猫たち、初めて見る犬の匂いや鳴き声)







#### 知らない人に身体を触られる、 痛みを伴う取り扱い

(例:触診、採血やX線での保定、痛みのある足を動かされる)

### 不快な、または慣れない感覚

(例:清掃用品のにおい、胸にあたる聴診器)



### 移動キャリーでの良い経験

「移動キャリーの中で過ごすことは快適だ」と猫がキャリーに対してポジティブな経験をすれば、動物病院に行くことが快適なものになります。

- ●猫が普段寝ている毛布など、キャリーの中には温かくて柔らかい、猫が普段から慣れ親しんでいるものを敷いてください
- ●猫をキャリーに入れる15分前に、猫用合成フェロモン製品をキャリー内にスプレーします
- ●なじみのあるにおいがついたタオルや毛布をキャリーの上にかぶせて、猫が 安心できるようにしましょう
- ●できれば少量のおやつや、お気に入りのおもちゃも入れましょう
- ●キャリーを動かすときは中にいる猫が不安定になります。ハンドルだけで保持せず、キャリーの下側を支えて水平に保ち、動きを最小限に抑えます(図2)



図2:猫のキャリーを下から支えて動きを減らし、 水平を保ちましょう。 出典: Lucy Daniels

### 動物病院へ連れて行く前の準備

猫が動物病院への来院に慣れ、病院へ行くことがポジティブな体験となるようにすることは大変重要です。もし子猫の頃から取り組めれば理想的ですが、成猫や高齢猫であっても、前ページを参考にすればキャリーでの移動が快適なものになります。

#### 適切なキャリーの選択

猫が逃げないように配慮された、安全で安心できるキャリーを選ぶことが大切です。リュック型のキャリーは過剰な動きを引き起こすことがあり、柔らかい布製のキャリーは倒れたり清潔に保つことが難しかったりするため、これらは避けた方が無難です(図3)。またキャリーの上部が取り外せない、または開かないタイプは、病院での診察をより困難なものにします。



- リュック型キャリー
- ●狭い空間
- ●不安定な動き
- ●猫が外から見える状態におく
- ●換気不良



- 布製キャリー
- ●清潔に保てない
- ●開ける際に倒れて不快感を招く



- 首輪つきハーネス
- ●安全な移動手段ではない

図3:動物病院来院の際、避けるべき方法。

出典: Lili Chin、インターナショナル・キャット・ケア

1

キャリーの材質は頑丈なプラスチック製が望ましく(図4)、お手入れも簡単です。キャリーの上半分を取り外すことが出来れば、猫は安心しながらキャリーの中で診察を受けることができます。多頭飼いの場合は、十分な数のキャリーを用意し、各猫を1頭ずつ別々のキャリーに入れて下さい。(猫がストレスを受けた状態で閉じ込められていると普段と異なった行動をとる可能性があります)。

#### 猫をキャリーに入れる

理想は猫が自ら進んでキャリーに入ることですが、おやつやおもちゃで誘導したり、キャリーに入るためのトレーニングをすることも有効です(次ページ図参照)。

猫をキャリーに入れる必要がある際は、常に穏やかに静かに行いましょう。

参考動画 インターナショナル・キャット・ケア

https://www.youtube.com/ watch?v=Yhz3V4i3wH4



### 猫をキャリーに慣れさせる

キャリーは、必要になる時まで物置 やガレージに片づけられていることが 多いものです。しかし、普段から猫が過 です部屋にキャリーを置いて、猫が眠 ったり、休息場所としてキャリーを使う ように促してみましょう(図5)。こうす ることで、キャリーには猫になじみのに おいがうつり、猫はキャリーで過ごすこ とを快適に感じられるようになります。 また緊急の際も直ちにキャリーを使用 することが出来ます。

キャリーには猫にとって心地よい毛 布を敷き、キャリーの中でおやつを定 期的に与えるなどして、猫がキャリーで 過ごすことを楽しいと感じられるよう にしましょう。



図4:適切なキャリーを選択することで、動物病院への移動と診察から猫が受けるストレスを軽減することができる。 出典:インターナショナル・キャット・ケア





# 猫がキャリーの中で落ち着いて過ごせるよう猫をトレーニングする

私たちは犬をトレーニングするのと同じように猫を「トレーニングする」ことはできないと考えがちです。

しかし猫は頭が良く、ちゃんと教えれば「キャリーに入ることは良いことだ」と学ぶことが出来ます。そのトレーニングには時間と忍耐が必要ですが、猫が一生の間に何度も動物病院を訪れたり、他の場所に連れて行ったりする可能性を考えればその価値はあります。

このトレーニングの方法は、図6と次のウェブサイトにある一連のビデオで説明されています。

https://catfriendlyclinic.org/catowners/getting-your-cat-to-the-vet



私たちと同じように、猫は乗り物酔いをし、キャリーの中で具合が悪くなること(嘔吐など)があります。また流涎や唾を飲み込むしぐさが見られることがあります。

もし、あなたの猫が移動中に具合が悪くなるような場合は、移動前の酔い止め薬 について担当の獣医師にご相談ください。

### 投薬が有用な場合

一部の猫では、来院前トレーニングなどの努力にもかかわらず、動物病院への来院ストレスが極めて大きい場合があります。これは、猫が記憶している過去の嫌な体験または個々の猫の気質によるものと考えられます。

このような状況では、動物病院を訪れる前に、担当の獣医師が処方した薬を猫に投薬することが有用です。ガバペンチン\*は、この目的で最も一般的に使用される薬物であり、猫の不安を軽減し、移動中および診察時の猫の落ち着きを助けるのに有効であることが示されています。もしあなたの猫が、来院の度にとても不安がり極度の恐怖心を抱いている場合は、まずこのことについて担当の獣医師にご相談ください。

そして実際の診察前に、薬剤を試し に与て、その効果や副作用がないこと を確認するのもよいでしょう。

(\*日本では動物薬未承認)



### 動物病院に猫を連れて行く

車の中、電車の中、バスの中、膝の上など、どこであっても動物病院へ連れて行かれることは、猫にとってストレスになります。移動時に体で受ける振動や、これまで聞いたことのない不思議な音、光景、匂いは、猫を怖がらせるかもしれません。

猫を怖がらせないために、いくつかの簡単なヒントを以下にお示しします。

- ●毛布またはタオル(移動の15分前 に猫用合成フェロモン製品をスプ レーしてもよい)でキャリーを覆う
- ●キャリーが車内で確実に固定される ようにする。理想は、後部座席の足 元に固定(図7)
- ●移動中に猫が感じる「揺れ」を減らす ために、キャリー用のバギーや台車 を使用する
- ●置く場所が汚れている場合はビニルシート/袋の上にキャリーを置き、より長い移動をする場合は予備の毛布とペットシーツも用意する。猫がキャリーの中で排尿・排便したりする場合は、気分が悪かったり、恐怖を感じている可能性があるので、担当の獣医師に相談する。

●車内の換気がよく、猫に適した温度であることを確認する。

どのようなタイプの移動でも、例え 猫が鳴き続けたとしても、移動の途中 でキャリーを開けようとしてはいけま せん。それは、あなたや猫にとって安全 ではないからです。猫を落ち着かせる ために、静かに落ち着いた声で話しか けてみましょう。

今後猫を連れて移動する時に備えて、 前述した猫をキャリーに慣れさせるト レーニングをご検討ください。もし移動 に際し、猫が大変な苦痛を伴っている ような場合は、適切な投薬について担 当獣医師にご相談ください。

### 帰宅後

帰宅したら(特に1泊以上動物病院 に滞在したあと)猫は同居猫にとって 非常に異なったにおいがするでしょう。

さらには包帯が巻かれていたり、毛 刈りされていたり、またはカラーが付い ている場合があり、これらはすべて以 前と異なる外観になっています。



軽い毛布をキャリーの大部分に覆い、換気を維持すると同時に猫の安心感を増す



両手を使って しっかりと運ぶ



足元に置く。十分なスペース がない場合は後部座席にシ ートベルトでキャリーを固 定する

図7:猫を安全に、そして猫が安心できるようキャリーに入れて移動させる方法。 出典: Lili Chin、インターナショナル・キャット・ケア

これにより以前はうまくやっていた 猫でもシャーッ!と怒ったり、相手の猫 をパンチしたり、互いに回避したりする ことがあります。したがって、病院から 帰宅した猫を再認識してもらうために は、下記のような配慮をしてあげること が良いでしょう。

- ●帰宅した猫を、大げさに出迎えたり しないように心がけましょう。
- ●帰宅した猫は違う部屋に隔離し、特に手術後麻酔の影響が残っている可能性がある場合は、快適な環境 (食事、水、トレイ、居心地の良いベッド)を用意します。

- ●帰宅した猫は、再びグルーミングを しながらにおいを嗅ぎ、家庭環境に なじむようになります。別の部屋に 猫が休む場所から持ってきた寝具を 置くことは、なじみのある「家庭のに おい」を再現するのに役立ちます。
- ●退院の数時間後、または翌日くらいから、徐々に見守りながら対面を始めてください。
- ●猫の反応を観察します。もし相手の 猫への攻撃行動や逃避がまだ見ら れる場合は、もう少し時間をかけて 接触させましょう。
- ●猫が普段過ごす部屋に、猫用合成 フェロモン製品の拡散器タイプを つけたり、スプレーを使用すること も良いでしょう。

## 詳細な情報とヒント

私たちは皆、猫たちが健康で幸せでありたいと願っています。動物病院への来院を楽にする工夫は、飼い主と猫の両方にメリットをもたらすでしょう。

動物病院の先生やスタッフと、猫の心配事についてどんな些細な事でも話し合いましょう。さらに詳しい情報とヒントについては、インターナショナル・キャット・ケアの「キャット・フレンドリー・クリニック~猫にやさしい動物病院~」をご覧ください。

https://catfriendlyclinic.org



### ご支援について

インターナショナル・キャット・ケアが発行するこの「猫の飼い主へのガイド」(無料)が皆さまのお役に立てれば幸いです。

もしインターナショナル・キャット・ケアの活動をご 支援していただける場合はご寄付をお願いいたします。 すべてのご支援は、それぞれの猫が暮らしやすい世 の中になるための活動に使われます。インターナショ ナル・キャット・ケアの活動内容や、ご寄付についての 詳細は、下記のウェブサイトをご覧ください。

https://icatcare.org/support-us



全ての猫を代表して、インターナショナル・キャット・ ケアよりお礼を申し上げます。





翻訳協力:セバ・ジャパン株式会社